



# 乗鞍岳火山噴火 緊急減災対策砂防計画の取り組み

## 乗鞍岳の概要

乗鞍岳は、岐阜・長野県境に位置し、剣ヶ峰や恵比須岳など、複数の火山が南北に連なった火山体の総称であり、「乗鞍岳」という峰はありません。山岳一体は中部山岳国立公園に指定されており、マイチョロや色どりの高山植物など、希少な動植物が生息しています。また優れた景観を楽しむために、シーズン中には多くの登山・観光客が訪れる山岳観光地です。乗鞍岳を訪れる観光客は乗鞍スカイライン・乗鞍工コーラインを経由することにより、バスで気軽に標高2700mの畳平まで行くことができます。



## 減災計画策定の背景・目的

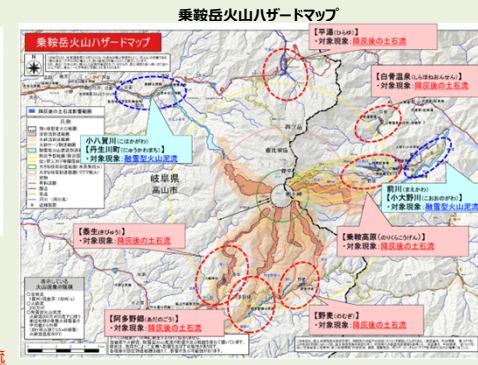
乗鞍岳は「活火山」です。少なくとも過去1万年内に剣ヶ峰（3,026m）付近から噴火し、火山灰や溶岩流を噴出したほか、水蒸気噴火も何回か発生していることがわかっています。現在噴気活動は見られず、歴史時代以降に噴火した記録も見つかっていませんが、過去100年程度以内に火山活動の高まりが認められる可能性が高いとして、気象庁の「**常時観測火山**」に選定されています。

そのため、乗鞍岳火山噴火に伴い想定される土砂災害の被害軽減を目的として、ハード対策とソフト対策からなる緊急対策を迅速かつ効果的に実施する方針をまとめた「乗鞍岳火山噴火緊急減災対策砂防計画」を、令和2年3月に策定しました。

### 乗鞍岳緊急減災対策（ハード・ソフト）の考え方

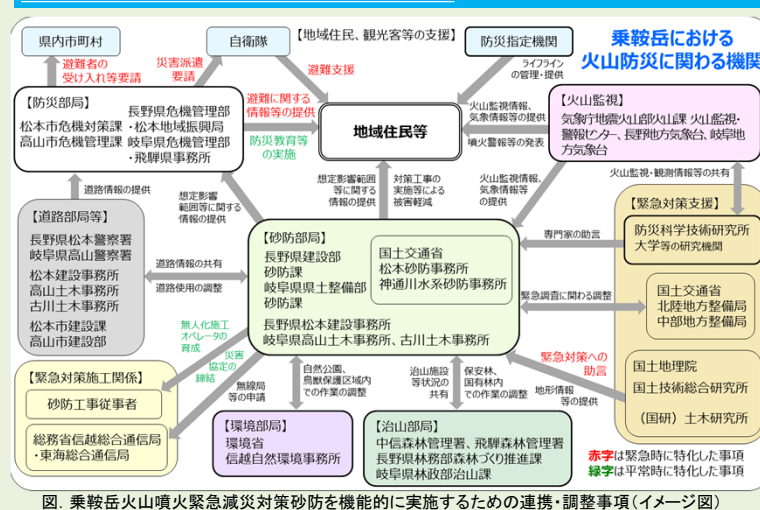


【対策目的】  
保全対象の被害軽減避難路等の安全確保  
【計画対象現象・規模】  
降灰後の降雨により発生する**降灰後の土石流**  
積雪期の火砕流等により発生する**融雪型火山泥流**



## 平常時からの取り組み～迅速かつ効果的な対応へ～

乗鞍岳噴火の際に迅速な対策ができるよう、平常時から周辺市町村や関係機関との情報共有体制を構築する。



## 事務所での取り組み

乗鞍岳噴火時の緊急時における対応がスムーズに実施できるよう、平常時から事務所内で緊急対策箇所の検討や、座学・訓練を実施している。

### 【取り組み①】緊急対策箇所における対策検討

＜乗鞍ハートマップ対策箇所＞（図1・2）（図3）（図4）（図5）

＜乗鞍ハートマップ対策箇所＞（図6）（図7）（図8）（図9）

＜乗鞍ハートマップ対策箇所＞（図10）（図11）（図12）（図13）

### 隣接する複数深流からの降灰後土石流への対策検討

乗鞍高原地区の検討内容

＜令和4年度＞

＜令和5年度＞

＜令和6年度＞

## 作業部会での取り組み

乗鞍岳噴火時の緊急時における対応を国と県が連携してスムーズに実施するために、平常時から各機関の検討等について情報・認識共有しておくために、情報交換会を開催している。

### 【取り組み①】合同現地調査の実施

大縮尺図面や3D地形図を活用し、より具体的な現地・対策イメージを創出

### 【取り組み②】各県毎に情報交換会を開催

各機関における取り組み状況の共有や意見交換を実施

## 【取り組み②】緊急調査に関する訓練

### 降灰量調査

降灰量調査の様子

### 浸透能調査

浸透能調査の様子

### 火山噴火

火山噴火の様子

### 火山噴火

火山噴火の様子

減災対策箇所におけるハード対策・ソフト対策計画について、実施内容を即時に着手すると考えたときに必要となる資料(カルテ)を作成  
隣接する複数深流から同時に土石流が発生した場合について、数値シミュレーションにより影響確認を実施  
土砂災害防止法に基づく噴火時緊急調査について事務所内訓練を定期的実施